

私達に欠かせないもの

室蘭市立室蘭西中学校3年 篠崎 未来

なぜ「税」は欠かせない存在なのか。それは、税によって国民一人一人がより豊かで、安全・安心な暮らしを成り立たせるためだ。このことを知ったのは、税金の大切さが身に染みてからだった。

「見てごらん。大きいばあちゃん、デイサービスでこれ作ってきたんだよ。」大きいばあちゃんとは曾祖母の呼び名だ。デイサービスに行っては、様々なものを作って私に見せてくれた。そんな曾祖母は私の祖父母の家に住んでいる。そこには、玄関やお手洗いにいくまでの廊下に手すりがある。足が悪い曾祖母だけで出来る物事を増やそう、と取り付けたものだ。祖父は「この手すりは介護保険のおかげで、安く取り付けられたのだよ」と言っていた。とても驚いた。こんなところにも税金が使われているなんて。

これをきっかけに、税について関心を持つようになり、図書館で税の事を調べてみた。手すりを取り付ける補助金は、国の支出の三分の一を占めている、社会保障というものだと分かった。社会保障は、年金を支払うための費用や医療費などに使われている。また、[公立中学校の生徒一人当たりの年間教育費]という身近なものを調べた。その額なんと約百万円だそうだ。とてもありがたく感じる。一部の外国は、戦争や紛争に税を費やしていると考え、ぞっとする。そう考えると日本は、新品の教科書を無償で頂けたり、ICTを利用した教育も整っていたりと、充実した環境で学んでいるのが分かる。税金を知ることによって、様々なものを多方向から考えられると、自分の知識が増えていくようで心嬉しい。税について色々と調べていくうちに、新たな疑問が浮かんだ。自分のまちで使われている税金にはどのような使い道があるのだろうか。

夏休み期間中、子ども議会に出席するため、市役所へ行く機会があった。そこで、日頃夜道が暗くて困っていたので、街路灯について伺った。市道など比較的大きい道路の街路灯は、市で管理をしていて、住宅街などの街路灯は町内会で管理をしているという。そして、町内会が町内に街路灯を取り付ける際、市は設置額の三分の二となる補助金を交付してくれる制度があることも初耳だった。税金で賄う補助金によって、明るいまちになる。更に、税金を納めることで、自分や地域・国での生活を豊かにし、互惠関係を築く足掛かりとなっているのだ。

今ある日常は、当たり前のように当たり前ではない。税があるからこそ、世の中は発展し、経済の充実と安定にもつながる。まさしく、税金は暮らしに欠かせない大切な存在なのだ。その上、税の制度は互いに支え合い、助け合うことができる。そのためにも、税金を納めるだけでなく、税金の使い道を知ることが重要だ。私にはまだ知らないことが多くある。社会に貢献するためにも学び続けたい。